

Assistive and Accessible Computing 研究成果を世界に発信しよう

小林正朋¹ 佐藤大介² 設楽明寿³

馬場哲晃⁴ 平賀瑠美⁵ 諸熊浩人⁶

概要：全世界を巻き込み今なお続いている COVID-19 の影響を誰もが様々な形で受けている。行動や活動の制約を新たに課せられた中で、Assistive and Accessible Computing (AAC) の研究への取り組みは各自が工夫しながら続けている。研究の報告を行う場である研究会や国際会議の多くがこれまで実施したことのない遠隔方式で行われており、我々は研究を停滞させることなく、成果を届けることが期待されている。本オーガナイズドセッションでは AAC 研究会で発表される研究をより広く知ってもらうため、どのような場があり、そのためには何が必要か、アクセシブルな研究発表は、といったことについて、情報提供を受け、研究会出席者全員でディスカッション、情報共有を行う。

Assistive and Accessible Computing Let the world know our research

Masatomo Kobayashi^{†1} Daisuke Sato^{†2} Akihisa Shitara^{†2}

Tetsuaki Baba^{†4} Rumi Hiraga^{†5} Hiroto Morokuma^{†6}

1 日本アイ・ビー・エム株式会社
IBM Japan, Ltd.

2 カーネギーメロン大学
Carnegie Mellon University

3 筑波大学
University of Tsukuba

4 東京都立大学
Tokyo Metropolitan University

5 筑波技術大学
Tsukuba University of Technology

6 株式会社 U'eyes Design
U'eyes Design Inc.